



**Cisco Unified Communications Manager,
Release 9.1(1) IM and Presence サービス用 IP ア
ドレス / ドメイン / ホスト名**

2012 年 11 月 28 日

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意 (www.cisco.com/jp/go/safety_warning/) をご確認ください。

本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動 / 変更されている場合がありますことをご了承ください。

あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: www.cisco.com/go/trademarks. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

このマニュアルで使用している IP アドレスは、実際のアドレスを示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、および図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスが使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco Unified Communications Manager, Release 9.1(1) IM and Presence サービス用 IP アドレス / ドメイン / ホスト名
© 2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



CONTENTS

CHAPTER 1**作業前のチェックリスト 1-1**

CHAPTER 2**IP アドレスで定義したサーバの IP アドレスの変更 2-1**

IP アドレスで定義したパブリッシャ サーバの IP アドレスの変更 2-1

IP アドレスで定義したサブスクリバ サーバの IP アドレスの変更 2-4

CHAPTER 3**ホスト名 /FQDN で定義されたサーバの IP アドレスの変更 3-1**

ホスト名 /FQDN で定義したパブリッシャ サーバの IP アドレスの変更 3-1

レプリケーションのリセット 3-4

ホスト名 /FQDN で定義したサブスクリバ サーバの IP アドレスの変更 3-4

CHAPTER 4**サーバ ホスト名の変更 4-1**

パブリッシャ サーバ ホスト名の変更 4-1

サブスクリバ サーバ ホスト名の変更 4-3

CHAPTER 5**サーバ ドメインの変更 5-1**

手順の概要 5-1

手順のワークフロー 5-2

DNS レコードの更新 5-3

IM and Presence のノード名の更新 5-5

DNS ドメインの更新 5-6

ドメイン更新後のクラスタにあるすべてのサーバのリブート 5-8

データベース レプリケーションの再開 5-9

セキュリティ証明書の再生成 5-11

CHAPTER 6**変更後の作業リスト 6-1**

CHAPTER 7**IP アドレス変更後の IM and Presence および MOC 相互運用性の検証 7-1**

CHAPTER 8**マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート 8-1**

シスコ製品のセキュリティ 8-1



CHAPTER 1

作業前のチェックリスト

このマニュアルでは、IM and Presence サーバの IP アドレス、ホスト名、またはドメインを変更する手順を示します。これらの値をさまざまな理由で変更することが必要になる場合があります。たとえば、サーバを別のドメインに移動する場合や、重複している IP アドレスの問題を解決する場合です。



警告

これらの手順は、スケジュールしたメンテナンス時間内に実行する必要があります。

次の作業を実行して、システムで IP アドレス、ホスト名、またはドメインを変更できることを確認します。



注意

アドレスの変更が可能であることを示す結果がこの作業の実行で得られない場合は、見つかった問題をすべて解決するまでこの手順を実行しないようにします。

手順

- ステップ 1** クラスタにあるすべてのサーバを調べ、それらのノードの定義で IP アドレスを使用しているか、ホスト名を使用しているかを確認します。
- 最初のノードの Cisco Unified CM IM and Presence の管理から、[システム (System)] > [クラスタ トポロジ (Cluster Topology)] を選択します。
 - [クラスタ トポロジの詳細 (Cluster Topology Details)] ウィンドウの左フレームで、使用可能なサーバのリストを確認します。
 - 後で参照できるように、使用可能なサーバのリストを記録しておきます。
- ステップ 2** クラスタにあるノードのそれぞれで、IP アドレス、ホスト名、およびドメインのリストを保存済みであることを確認します。
- ステップ 3** アクティブな **ServerDown** 警告が発生していないか調べ、クラスタにあるすべてのサーバが正常に稼働していて、利用可能であることを確認します。これは、パブリッシャ ノードで次のコマンドを入力することによって実行できます。
- ```
file search activelog syslog/CiscoSyslog ServerDown
```
- ステップ 4** データベース レプリケーションのステータスを調べ、すべてのサーバでデータベースの変更内容が正常に複製されていることを確認します。パブリッシャ ノードに次の CLI コマンドを入力します。
- ```
utils dbreplication runtimestate
```
- サンプル出力は次のとおりです。
- ```
DB and Replication Services: ALL RUNNING
```

```
Cluster Replication State: Replication status command started at: 2012-02-26-09-40
Replication status command COMPLETED 269 tables checked out of 269
No Errors or Mismatches found.
```

Use 'file view activelog cm/trace/dbl/sdi/ReplicationStatus.2012\_02\_26\_09\_40\_34.out' to see the details

```
DB Version: ccm8_6_3_10000_23
Number of replicated tables: 269
```

Cluster Detailed View from PUB (2 Servers):

| SERVER-NAME  | IP ADDRESS   | PING (msec) | RPC? | REPLICATION STATUS | REPL. QUEUE | DBver& TABLES | REPL. LOOP? | REPLICATION SETUP (RTMT) & details |
|--------------|--------------|-------------|------|--------------------|-------------|---------------|-------------|------------------------------------|
| gwydla020218 | 10.53.46.130 | 0.038       | Yes  | Connected          | 0           | match         | Yes         | (2) PUB Setup Completed            |
| gwydla020220 | 10.53.46.133 | 0.248       | Yes  | Connected          | 128         | match         | Yes         | (2) Setup Completed                |



**(注)** すべての REPLICATION SETUP (RTMT) & details で、状態 2 が報告されていることを必ず確認してください。2 以外の場合は、データベース レプリケーションに問題があることを示しています。

**ステップ 5** ネットワーク接続と DNS サーバ設定を確認します。確認するには、次の例に示す CLI コマンドを入力します。

```
admin: utils diagnose module validate_network
Log file: /var/log/active/platform/log/diag1.log
```

```
Starting diagnostic test(s)
=====
test - validate_network : Passed
```

```
Diagnostics Completed
admin:
```

**ステップ 6** サーバの IP アドレスを変更する予定で、ネットワークでドメイン ネーム システム (DNS) を使用している場合は、その IP アドレスを変更する前に次の点を確認します。

- 順方向および逆方向のルックアップゾーンが設定されている。
- DNS が到達可能であり、稼働している。

**ステップ 7** 手動で DRS バックアップを実行し、すべてのノードとアクティブなすべてのサービスが正しくバックアップされていることを確認します。

**ステップ 8** IP アドレス、ホスト名、またはドメインを変更するノードを持つすべてのサブスクリバで、ハイアベイラビリティ (HA) をディセーブルにします。Cisco Unified CM IM and Presence の管理で、[ システム (System) ] > [ クラスタ トポロジ (Cluster Topology) ] を選択します。HA を無効にする方法の詳細については、『*Deployment Guide for IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

**ステップ 9** 変更されるパブリッシャ/サブスクリバノードがクラスタ間ピアである各クラスタで、クラスタ間ピアのリストからパブリッシャ/サブスクリバのクラスタを削除します。

たとえば、ClusterA、ClusterB および ClusterC はすべてクラスタ間ピアです。ここでは、ClusterA のパブリッシャノードでホスト名を変更します。まず、ClusterB および ClusterC の両方のクラスタ間ピアのリストから、ClusterA のパブリッシャノードを削除する必要があります。

**ステップ 10** 各クラスタにある最初のサブクラスタのパブリッシャノードおよびサブスクリバノードで、Cisco Intercluster Sync Agent を再起動します。

**ステップ 11** Cisco Unified CM IM およびプレゼンスの管理 GUI の通知によって、再起動が必要であることが示された場合は、クラスタにあるすべてのノードで Cisco XCP Router を再起動します。

**ステップ 12** IM and Presence リリース 9.0 以降では、Real-Time Monitoring Tool (RTMT) を含むシングルサインオン (SSO) 機能を IM and Presence インターフェイスで使用できます。IM and Presence サーバのホスト名は、SSO が正しく機能するための重要な情報です。シスコは、IM and Presence サーバのホスト名を変更する前に、SSO を無効にするよう推奨しています。ホスト名を変更した後で、新しいホスト名を使用して SSO を再び有効にできます。SSO の詳細については、『*Deployment Guide for IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager*』の「Single Sign-On Configuration」の項を参照してください。



**(注)** SSO を無効にした後に IM and Presence にアクセスするには、ログイン クレデンシャルを入力する必要があることに注意してください。SSO を無効にする前に、ログイン クレデンシャルを記録してください。ログイン情報を忘れた場合は、IM and Presence アプリケーションからロックアウトされる可能性があります。

**ステップ 13** 次の IM and Presence サービスを停止するには、クラスタにあるすべてのノードで次の CLI コマンドを実行します。

- `utils service stop Cisco Config Agent`
- `utils service stop Cisco Intercluster Sync Agent`
- `utils service stop Cisco Client Profile Agent`
- `utils service stop Cisco Presence Engine`
- `utils service stop Cisco OAM Agent`
- `utils service stop Cisco SIP Proxy`
- `utils service stop Cisco Sync Agent`
- `utils service stop Cisco XCP Router`
- `utils service stop Cisco Presence Datastore`
- `utils service stop Cisco SIP Registration Datastore`
- `utils service stop Cisco Login Datastore`
- `utils service stop Cisco Route Datastore`
- `utils service stop Cisco XCP Config Manager`

#### トラブルシューティングのヒント

IP アドレスまたはホスト名を変更する前にこれらのサービスを適切にシャットダウンできなかった場合は、名前変更のプロセス中に誤った警告およびコア ダンプがトリガーされる可能性があります。この手順を誤ってスキップし、結果として警告やコアが生成された場合は、手動でこれらをクリアし、CLI コマンド `file delete activelog core` によってコアを削除する必要があります。

#### 関連項目

『*Deployment Guide for IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager*』

『*Disaster Recovery System Guide*』







## CHAPTER 2

# IP アドレスで定義したサーバの IP アドレスの変更

- 「IP アドレスで定義したパブリッシャ サーバの IP アドレスの変更」(P.2-1)
- 「IP アドレスで定義したサブスクリバ サーバの IP アドレスの変更」(P.2-4)

ここでは、IP アドレスで定義したサーバの IP アドレスを変更する方法について説明します。



**注意**

IM and Presence クラスタにあるどのノードで IP アドレスを変更しても、プレゼンス サービスやその他のシステム機能が中断する可能性があります。また、IP アドレスの変更によって、ServerDown や SDLLinkOSS などの特定のアラームや警告が発生することや、バックアップサーバへの自動的なフェールオーバーが機能しなくなることもあり得ます。このような影響の発生が考えられるので、IP アドレスの変更は、定期的なメンテナンスの時間帯で実施する必要があります。

## IP アドレスで定義したパブリッシャ サーバの IP アドレスの変更

IP アドレスで各サーバを定義している場合に、パブリッシャ サーバの IP アドレスを変更するには、ここに示す手順を使用します。



**(注)**

この手順を使用して、サブスクリバ ホストのパブリッシャ サーバを別のパブリッシャ サーバに変更することはできません。

### はじめる前に

- 「作業前のチェックリスト」(P.1-1) を参照してください。
- パブリッシャ IP アドレスを変更する前に、サブスクリバ ノードの IP アドレスが変更されていること（必要な場合）を確認します。



**注意**

ゲートウェイアドレスを変更する必要がある場合は、IP アドレスを変更する前に実行する必要があります。IP アドレスを最初に変更する場合は、IM and Presence サーバが即座に再起動するため、ゲートウェイを変更できません。

## 手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM IM and Presence の管理から、パブリッシャ サーバで次の作業を実行します。
- [ システム (System) ] > [ クラスタ トポロジ (Cluster Topology) ] を選択します。
  - [ クラスタ トポロジ (Cluster Topology) ] ツリービューからパブリッシャ ノードを選択します。
  - [ ノード設定 (Node Configuration) ] セクションで、IM and Presence サーバの IP アドレスを変更します。
  - [ 保存 (Save) ] を選択します。

- ステップ 2** Cisco Unified Communications Manager の管理から次の作業を実行し、パブリッシャ サーバ上で新しい IP アドレスを反映します。
- [ システム (System) ] > [ アプリケーション サーバ (Application Server) ] を選択します。
  - [ サーバの検索と一覧表示 (Find and List Servers) ] ウィンドウから [ 検索 (Find) ] を選択し、サブスクライバ サーバを表示します。
  - 新しい IP アドレスがアプリケーション サーバのリストにあることを確認します。



(注) 新しい IP アドレスがサーバのリストにない場合は、先の手順には進まないでください。

- ステップ 3** 各サブスクライバ ノードで次のコマンドを入力し、クラスタにあるすべてのサブスクライバ ノードに、この IP アドレスの変更が複製されていることを確認します。

```
run sql select name,nodeid from ProcessNode
```

このコマンドの出力例を次に示します。

```
admin: run sql select name,nodeid from ProcessNode
name nodeid
=====
EnterpriseWideData 1
10.3.90.21 4
10.3.90.5 2
```



(注) この IP アドレスが、クラスタにあるすべてのノードに複製されていない場合は、先の手順には進まないでください。

- ステップ 4** クラスタにある各サブスクライバ サーバの CLI で次の作業を実行することにより、サブスクライバ サーバごとにパブリッシャ サーバの IP アドレスを変更します。

- 次のコマンドを入力します。
 

```
set network cluster publisher ip new_ip_address
```

- Yes** と入力して Enter キーを押します。サーバが自動的に再起動します。

- ステップ 5** CLI で次の作業を実行して、パブリッシャ サーバの IP アドレス、および必要に応じてデフォルト ゲートウェイの IP アドレスを新しいアドレスに変更します。

- 新しいデフォルト ゲートウェイのアドレスを必要とする別のサブネットにサーバを移動する場合は、CLI コマンド `set network gateway` を入力します。

次の出力が表示されます。

```
admin:set network gateway 10.53.56.1
```

```
WARNING: Changing this setting will invalidate software license
```

on this server. The license will have to be re-hosted.

Continue (y/n)?

b. **yes** と入力して Enter キーを押します。

c. パブリッシャサーバのIPアドレスを変更するには、CLI コマンド **set network ip eth0 ip\_address netmask gateway** を入力します

このコマンドでは、サーバの新しいIPアドレスを *ip\_address* で指定し、サーバの新しいネットワークマスクを *netmask* で指定します。

次の出力が表示されます。

```
admin:set network ip eth0 10.53.57.101 255.255.255.224 10.53.57.1
```

WARNING: Changing this setting will invalidate software license on this server. The license will have to be re-hosted.

Continue (y/n)?

d. **yes** と入力して Enter キーを押します。



(注)

IM and Presence サーバのゲートウェイおよびIPアドレスの変更に加えて、スイッチを変更した場合は、サーバが自動的に再起動している間に以下の手順を実行します。実行しないと、起動時にIM and Presence スクリプトがネットワーク接続の確認に失敗する可能性があります。

- 再起動画面を確認する
- 古いIPアドレスに *ping -t* と入力する
- ping に失敗するようになったら、古いスイッチから接続を解除し、新しいスイッチに接続する

**ステップ 6** パブリッシャ ノードが再起動した後、次の CLI コマンドですべてのサブスクリバ ノードを再起動します。

```
utils system restart
```

**ステップ 7** すべてのノードが正常に再起動した後、パブリッシャ ノードで次の CLI コマンドを実行して、レプリケーションをリセットします。

```
utils dbreplication reset all
```



(注) このコマンドの実行には最大 15 分かかります。

**ステップ 8** `utils dbreplication reset all` コマンドが完了した後、次の CLI コマンドでパブリッシャ ノードを再起動します。

```
utils system restart
```

**ステップ 9** パブリッシャ ノードが再起動した後、次の CLI コマンドでクラスタ内のすべてのサブスクリバ ノードを再起動します。

```
utils system restart
```



(注) クラスタにある複数のサーバの IP アドレスを変更するには、次の作業を実行します。

- 1 台のサーバの IP アドレスを変更します。
- クラスタをリブートします。
- レプリケーションのステータスを確認します。

変更した IP アドレスが正しく反映されている場合は、次のサーバで同じ手順を実行します。反映されていない場合は、他のサーバの IP アドレスを変更しないでください。

#### 関連トピック

- 『*Disaster Recovery System Guide*』
- 『*Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide*』

#### 次の作業

「変更後の作業リスト」(P.6-1)

## IP アドレスで定義したサブスクライバサーバの IP アドレスの変更

IP アドレスで各サーバを定義している場合にサブスクライバサーバの IP アドレスを変更するには、ここに示す手順を使用します。IP アドレスを正しく変更するには、この手順のすべての作業を完了する必要があります。

2 つ以上のサブスクライバサーバの IP アドレスを変更する場合は、次の作業を実行することを推奨します。

- a. 一度に 1 つのサーバの IP アドレスを変更します。
- b. パブリッシャサーバも含め、クラスタにある他のすべてのサーバを再起動し、データベース関連の設定ファイルを含むローカル名前解決ファイルを更新します。



#### 注意

注意：2 つ以上のサーバの IP アドレスを同時に変更すると、クラスタ内のローカル名前解決ファイルの同期が失われる可能性があるため、2 つ以上のサーバの IP アドレスを同時に変更しないでください。

#### はじめる前に

「変更後の作業リスト」(P.6-1)



#### 注意

ゲートウェイアドレスを変更する必要がある場合は、IP アドレスを変更する前に実行する必要があります。IP アドレスを最初に変更する場合は、IM and Presence サーバが即座に再起動するため、ゲートウェイを変更できません。

## 手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM IM and Presence の管理から、サブスクリバサーバで次の作業を実行します。
- [システム (System)] > [クラスタ トポロジ (Cluster Topology)] を選択します。
  - [クラスタ トポロジ (Cluster Topology)] ツリービューからパブリッシュ ノードを選択します。
  - [ノード設定 (Node Configuration)] セクションで、IM and Presence サーバの IP アドレスを変更します。
  - [保存 (Save)] を選択します。

- ステップ 2** Cisco Unified Communications Manager の管理から次の作業を実行し、サブスクリバサーバ上で新しい IP アドレスを反映します。
- [システム (System)] > [アプリケーションサーバ (Application Server)] を選択します。
  - [サーバの検索と一覧表示 (Find and List Servers)] ウィンドウから [検索 (Find)] を選択し、サブスクリバサーバを表示します。
  - 新しい IP アドレスがアプリケーションサーバのリストにあることを確認します。



(注) 新しい IP アドレスがサーバのリストにない場合は、先の手順には進まないでください。

- ステップ 3** 次の CLI コマンドを入力して、クラスタにあるすべてのノードに IP アドレスの変更が複製されていることを確認します。

```
run sql select name,nodeid from ProcessNode
```

このコマンドの出力例を次に示します。

```
admin: run sql select name,nodeid from ProcessNode
name nodeid
=====
EnterpriseWideData 1
10.3.90.21 4
10.3.90.5 2
```



(注) この IP アドレスが、クラスタにあるすべてのノードに複製されていない場合は、先の手順には進まないでください。

- ステップ 4** 必要に応じて、クラスタにあるすべてのサブスクリバノードで、ステップ 1 ~ 3 を繰り返します。

- ステップ 5** 次の作業を実行して、サブスクリバサーバの IP アドレスとデフォルトのゲートウェイ (必要な場合) の IP アドレスを新しいアドレスに変更します。

- 新しいデフォルト ゲートウェイのアドレスを必要とする別のサブネットにサーバを移動する場合は、CLI コマンド **set network gateway** を入力します。

次の出力が表示されます。

```
admin:set network gateway 10.53.56.2
```

```
WARNING: Changing this setting will invalidate software license
on this server. The license will have to be re-hosted.
```

```
Continue (y/n)?
```

- yes** と入力して **Enter** キーを押します。
- サブスクリバサーバの IP アドレスを変更するには、CLI コマンド **set network ip eth0 ip\_address netmask gateway** を入力します

このコマンドでは、サーバの新しい IP アドレスを `ip_address` で指定し、サーバの新しいネットワーク マスクを `netmask` で指定します。

次の出力が表示されます。

```
admin:set network ip eth0 10.53.57.101 255.255.255.224 10.53.57.1
```

```
WARNING: Changing this setting will invalidate software license
on this server. The license will have to be re-hosted.
```

```
Continue (y/n)?
```

- d. **yes** と入力して Enter キーを押します。

### トラブルシューティングのヒント

IM and Presence サーバのゲートウェイおよび IP アドレスの変更に加えて、スイッチを変更した場合は、サーバが自動的に再起動している間に以下の手順を実行します。実行しないと、起動時に IM and Presence スクリプトがネットワーク接続の確認に失敗する可能性があります。

- 再起動画面を確認する
- 古い IP アドレスに `ping -t` と入力する
- ping に失敗するようになったら、古いスイッチから接続を解除し、新しいスイッチに接続する

### 関連トピック

- 『*Disaster Recovery System Guide*』
- 『*Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide*』

### 次の作業

[「変更後の作業リスト」\(P.6-1\)](#)



## CHAPTER 3

# ホスト名 /FQDN で定義されたサーバの IP アドレスの変更

- 「ホスト名 /FQDN で定義したパブリッシャ サーバの IP アドレスの変更」 (P.3-1)
- 「ホスト名 /FQDN で定義したサブスクリバ サーバの IP アドレスの変更」 (P.3-4)



### 注意

特定のホスト名を持つサーバで DRS バックアップを作成した場合は、別のホスト名を持つサーバには復元できません。これは復元先のサーバがパブリッシャ サーバでもサブスクリバ サーバでも同様です。また、そのノードを再インストールしても復元はできません。

## ホスト名 /FQDN で定義したパブリッシャ サーバの IP アドレスの変更

ホスト名または FQDN で各サーバを定義している場合に、パブリッシャ サーバの IP アドレスを変更するには、ここに示す手順を使用します。DNS サーバは、ネットワーク インフラストラクチャを構成する要素の 1 つです。IM and Presence サーバは、DNS サービスを実行せず、また実行することもできません。



### (注)

この手順を使用して、サブスクリバ ホストのパブリッシャ サーバを別のパブリッシャ サーバに変更することはできません。

### はじめる前に

「作業前のチェックリスト」 (P.1-1)

### 手順

- ステップ 1** 次の操作を実行します。
- a. 新しい IP アドレスを指すようにパブリッシャ サーバの DNS レコードを変更します。
  - b. 必ず順方向 (A) レコードと逆方向 (PTR) レコードの両方を正しく更新します。
- ステップ 2** クラスタにある各サブスクリバ サーバの CLI で次の作業を実行することにより、サブスクリバ サーバごとにパブリッシャ サーバの IP アドレスを変更します。
- a. 次のコマンドを入力します。

## ■ ホスト名/FQDN で定義したパブリッシャ サーバの IP アドレスの変更

```
set network cluster publisher ip new_ip_address
```

- b. **Yes** と入力して Enter キーを押します。

**ステップ 3**

次の作業を実行して、パブリッシャ サーバの IP アドレスとデフォルトのゲートウェイ（必要な場合）の IP アドレスを新しいアドレスに変更します。

- a. 新しいデフォルト ゲートウェイのアドレスを必要とする別のサブネットにサーバを移動する場合は、CLI コマンド **set network gateway** を入力します。

次の出力が表示されます。

```
admin:set network gateway 10.53.56.1
```

```
WARNING: Changing this setting will invalidate software license
on this server. The license will have to be re-hosted.
```

```
Continue (y/n)?
```

- b. **yes** と入力して Enter キーを押します。

- c. パブリッシャ サーバの IP アドレスを変更するには、CLI コマンド **set network ip eth0 ip\_address netmask gateway** を入力します

*ip\_address* はサーバの新しい IP アドレス、*netmask* はサーバの新しいネットワーク マスク、*gateway* はゲートウェイをそれぞれ指定します。

次の出力が表示されます。

```
admin:set network ip eth0 10.53.57.101 255.255.255.224 10.53.57.1
```

```
WARNING: Changing this setting will invalidate software license
on this server. The license will have to be re-hosted.
```

```
Continue (y/n)?
```

- d. **yes** と入力して Enter キーを押します。

**ステップ 4**

パブリッシャ サーバが自動的に再起動した後、すべてのサブスクリバ サーバを再起動し、データベース関連の設定ファイルを含むローカル名前解決ファイル、およびサービスを更新します。

**ステップ 5**

CLI コマンドの **utils network host** および **show tech network hosts** を実行し、サブスクリバ ノードのローカル解決が新しい IP アドレスにも解決されることを確認します。

```
admin:utils network host lg-sub-4
Hostname lg-sub-4 resolves to 14.86.13.11
```

```
admin:show tech network hosts
```

```
----- show platform network -----
```

```
/etc/hosts File:
```

```
#This file was generated by the /etc/hosts cluster manager.
```

```
#It is automatically updated as nodes are added, changed, removed from the cluster.
```

```
127.0.0.1 localhost
14.87.10.10 lg-pub-1.lindermangroup.cisco.com lg-pub-1
14.87.10.11 lg-tftp-1.lindermangroup.cisco.com lg-tftp-1
14.87.10.12 lg-tftp-2.lindermangroup.cisco.com lg-tftp-2
14.87.11.10 lg-sub-1.lindermangroup.cisco.com lg-sub-1
14.87.11.11 lg-sub-3.lindermangroup.cisco.com lg-sub-3
14.86.13.10 lg-sub-2.lindermangroup.cisco.com lg-sub-2
14.86.13.11 lg-sub-4.lindermangroup.cisco.com lg-sub-4
14.87.11.12 lg-sub-5.lindermangroup.cisco.com lg-sub-5
14.87.11.13 lg-sub-7.lindermangroup.cisco.com lg-sub-7
14.86.13.12 lg-tftp-3.lindermangroup.cisco.com lg-tftp-3
14.87.20.20 lg-cups1.heroes.com lg-cups1
14.86.13.13 lg-sub-6.lindermangroup.cisco.com lg-sub-6
```



admin:



(注) IM and Presence サーバのゲートウェイおよび IP アドレスの変更に加えて、スイッチを変更した場合は、サーバが自動的に再起動している間に以下の手順を実行します。実行しないと、起動時に IM and Presence スクリプトがネットワーク接続の確認に失敗する可能性があります。

- 再起動画面を確認する
- 古い IP アドレスに `ping -t` と入力する
- ping に失敗するようになったら、古いスイッチから接続を解除し、新しいスイッチに接続する

**ステップ 6** パブリッシャ ノードが再起動した後、次の CLI コマンドですべてのサブスクリバ ノードを再起動します。

```
utils system restart
```

**ステップ 7** すべてのノードが正常に再起動した後、パブリッシャ ノードで次の CLI コマンドを実行して、レプリケーションを確認します。

```
utils dbreplication runtimestate
```



(注) データベースのサイズによっては、レプリケーションの再確立に数分から 1 時間以上の時間を要することがあります。

サンプル出力は次のとおりです。

```
DDB and Replication Services: ALL RUNNING
```

```
DB CLI Status: No other dbreplication CLI is running...
```

```
Cluster Replication State: BROADCAST SYNC Completed on 1 servers at: 2012-09-26-15-18
Last Sync Result: SYNC COMPLETED 257 tables sync'ed out of 257
Sync Errors: NO ERRORS
```

```
DB Version: ccm9_0_1_10000_9000
Number of replicated tables: 257
Repltimeout set to: 300s
```

```
Cluster Detailed View from gwydlvm020105 (2 Servers):
```

| SERVER-NAME   | IP ADDRESS     | PING (msec) | RPC? | REPLICATION STATUS | REPL. QUEUE | DBver& TABLES | REPL. LOOP? | REPLICATION SETUP (RTMT) & details |
|---------------|----------------|-------------|------|--------------------|-------------|---------------|-------------|------------------------------------|
| gwydlvm020105 | 192.168.20.244 | 0.038       | Yes  | Connected          | 0           | match         | Yes         | (2) PUB Setup Completed            |
| gwydlvm020106 | 192.168.10.201 | 0.248       | Yes  | Connected          | 128         | match         | Yes         | (2) Setup Completed                |



(注) すべての REPLICATION SETUP (RTMT) & details で、状態 2 が報告されていることを必ず確認してください。この値が 2 以外になっている場合は、データベースのレプリケーションに何らかの問題があるので、レプリケーションをリセットする必要があります。詳細については、「[レプリケーションのリセット](#)」(P.3-4) を参照してください。



(注) クラスタにある複数のサーバの IP アドレスを変更するには、次の作業を実行します。

- 1 台のサーバの IP アドレスを変更します。
- クラスタをリブートします。
- レプリケーションのステータスを確認します。

変更した IP アドレスが正しく反映されている場合は、次のサーバで同じ手順を実行します。反映されていない場合は、他のサーバの IP アドレスを変更しないでください。

## レプリケーションのリセット

レプリケーションが正常に完了しない場合は、次の手順を実行します。

**ステップ 1** レプリケーションをリセットするパブリッシャ ノードで次の CLI コマンドを実行します。

```
utils dbreplication reset all
```



(注) このコマンドの実行には最大 15 分かかります。

**ステップ 2** `utils dbreplication reset all` コマンドが完了した後、次の CLI コマンドでパブリッシャ ノードを再起動します。

```
utils system restart
```

**ステップ 3** パブリッシャ ノードが再起動した後、次の CLI コマンドでクラスタ内のすべてのサブスクリバ ノードを再起動します。

```
utils system restart
```

### 関連トピック

- 『*Disaster Recovery System Guide*』
- 『*Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide*』

### 次の作業

[「変更後の作業リスト」\(P.6-1\)](#)

## ホスト名/FQDN で定義したサブスクリバサーバの IP アドレスの変更

ホスト名または FQDN で各サーバを定義している場合に、サブスクリバサーバの IP アドレスを変更するには、ここに示す手順を使用します。DNS サーバは、ネットワーク インフラストラクチャを構成する要素の 1 つです。IM and Presence サーバは、DNS サービスを実行せず、また実行することもできません。

2 つ以上のサブスクリバサーバの IP アドレスを変更する場合は、次の作業を実行することを推奨します。

- a. 一度に 1 つのサーバの IP アドレスを変更します。
- b. バブリッシャサーバも含め、クラスタにある他のすべてのサーバを再起動し、データベース関連の設定ファイルを含むローカル名前解決ファイルを更新します。



#### 注意

2 つ以上のサーバの IP アドレスを同時に変更すると、クラスタ内のローカル名前解決ファイルの同期が失われる可能性があるため、2 つ以上のサーバの IP アドレスを同時に変更しないでください。

### はじめる前に

「作業前のチェックリスト」(P.1-1)

### 手順

**ステップ 1** 次の操作を実行します。

- a. 新しい IP アドレスを指すようにサブスクリバサーバの DNS レコードを変更します。
- b. 必ず順方向 (A) レコードと逆方向 (PTR) レコードの両方を正しく更新します。
- c. DNS キャッシュをリフレッシュして、レコードが正しく更新されていることを確認します。

**ステップ 2** 次の作業を実行して、サブスクリバサーバの IP アドレスとデフォルトのゲートウェイ (必要な場合) の IP アドレスを新しいアドレスに変更します。

- a. 新しいデフォルトゲートウェイのアドレスを必要とする別のサブネットにサーバを移動する場合は、CLI コマンド `set network gateway` を入力します。

次の出力が表示されます。

```
admin:set network gateway 10.3.90.2
*** WARNING ***
This will cause the system to temporarily lose network connectivity

Do you want to continue ?
```

Enter "yes" to continue or any other key to abort

- b. **yes** と入力して Enter キーを押します。
- c. サブスクリバサーバの IP アドレスを変更するには、CLI コマンド `set network ip eth0 ip_address netmask gateway` を入力します

このコマンドでは、サーバの新しい IP アドレスを `ip_address` で指定し、サーバの新しいネットワーク マスクを `netmask` で指定します。

次の出力が表示されます。

```
admin: set network ip eth0 10.53.57.101 255.255.255.224 10.53.57.1
*** WARNING ***
If there are IP addresses (not hostnames) configured in CallManager Administration
under System -> Servers then you must change the IP address there BEFORE changing it
here or call processing will fail. This will cause the system to restart
=====
Note: To recognize the new IP address all nodes within the cluster will have to be
manually rebooted.
=====
Do you want to continue?
Enter "yes" to continue and restart or any other key to abort
```

- d. **yes** と入力して Enter キーを押します。

- ステップ 3** すべてのクラスタ ノードで CLI コマンドの `utils network host` および `show tech network hosts` を使用して、DNS の変更が他のノードに伝搬されていることを確認します。

```
admin:utils network host lg-sub-4
Hostname lg-sub-4 resolves to 14.86.13.11

admin:show tech network hosts
----- show platform network -----

/etc/hosts File:
#This file was generated by the /etc/hosts cluster manager.
#It is automatically updated as nodes are added, changed, removed from the cluster.

127.0.0.1 localhost
14.87.10.10 lg-pub-1.lindermangroup.cisco.com lg-pub-1
14.87.10.11 lg-tftp-1.lindermangroup.cisco.com lg-tftp-1
14.87.10.12 lg-tftp-2.lindermangroup.cisco.com lg-tftp-2
14.87.11.10 lg-sub-1.lindermangroup.cisco.com lg-sub-1
14.87.11.11 lg-sub-3.lindermangroup.cisco.com lg-sub-3
14.86.13.10 lg-sub-2.lindermangroup.cisco.com lg-sub-2
14.86.13.11 lg-sub-4.lindermangroup.cisco.com lg-sub-4
14.87.11.12 lg-sub-5.lindermangroup.cisco.com lg-sub-5
14.87.11.13 lg-sub-7.lindermangroup.cisco.com lg-sub-7
14.86.13.12 lg-tftp-3.lindermangroup.cisco.com lg-tftp-3
14.87.20.20 lg-cups1.heroes.com lg-cups1
14.86.13.13 lg-sub-6.lindermangroup.cisco.com lg-sub-6
admin:
```

- ステップ 4** パブリッシュ サーバも含め、クラスタにある他のすべてのサーバを再起動し、データベース関連の設定ファイルを含むローカル名前解決ファイルを更新します。

#### トラブルシューティングのヒント

IM and Presence サーバのゲートウェイおよび IP アドレスの変更に加えて、スイッチを変更した場合は、サーバが自動的に再起動している間に以下の手順を実行します。実行しないと、起動時に IM and Presence スクリプトがネットワーク接続の確認に失敗する可能性があります。

- 再起動画面を確認する
- 古い IP アドレスに `ping -t` と入力する
- ping に失敗するようになったら、古いスイッチから接続を解除し、新しいスイッチに接続する

#### 関連トピック

- 『*Disaster Recovery System Guide*』
- 『*Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide*』

#### 次の作業

「変更後の作業リスト」(P.6-1)



## CHAPTER 4

# サーバ ホスト名の変更

- 「パブリッシャ サーバ ホスト名の変更」(P.4-1)
- 「サブスクリバ サーバ ホスト名の変更」(P.4-3)

## パブリッシャ サーバ ホスト名の変更

クラスタにあるパブリッシャ サーバのホスト名を変更するには、次の手順を実行します。DNS サーバは、ネットワーク インフラストラクチャを構成する要素の 1 つです。IM and Presence サーバは、DNS サービスを実行せず、また実行することもできません。

### はじめる前に

「作業前のチェックリスト」(P.1-1) を参照してください。

### 手順

**ステップ 1** 次の操作を実行します。

- パブリッシャ サーバの DNS レコードを、新しいホスト名、たとえば `newhost1` を指すように変更します（説明上、この手順では、CLI コマンド例で `newhost1` を使用）。
- 必ず順方向（A）レコードと逆方向（PTR）レコードの両方を正しく更新します。

**ステップ 2** すべてのクラスタ ノードで次の CLI コマンドを実行することにより、DNS の変更が他のノードに伝搬されていることを確認します。

```
utils network host newhost1
```

ここで、`newhost1` は新しいホスト名を意味します。

このコマンドの出力は次のようになります。

```
admin:utils network host newhost1
Hostname newhost1 resolves to 14.86.13.11
```

**ステップ 3** Cisco Unified CM IM and Presence の管理から、パブリッシャ サーバで次の作業を実行します。

- [ システム (System) ] > [ クラスタ トポロジ (Cluster Topology) ] を選択します。
- [ クラスタ トポロジ (Cluster Topology) ] ツリービューからパブリッシャ ノードを選択します。
- [ ノードの設定 (Node Configuration) ] セクションで、次のように新しいホスト名を反映するように [ 名前 (Name) ] を更新します。

- サーバをホスト名で定義している場合は、古いホスト名を新しいホスト名に置き換えます。たとえば、[名前 (Name)] を「old-host」から「new-host」に更新します。
  - サーバを FQDN で定義している場合は、古いホスト名ではなく、新しいホスト名を参照するように FQDN の値を更新します。たとえば、[名前 (Name)] を「old-host.example.com」から「new-host.example.com」に更新します。
- d. [保存 (Save)] を選択します。

**ステップ 4** Cisco Unified Communications Manager の管理から、次の作業を実行します。

- [システム (System)] > [アプリケーションサーバ (Application Server)] を選択します。
- [サーバの検索と一覧表示 (Find and List Servers)] ウィンドウで [検索 (Find)] を選択し、サーバを表示します。
- 新しいノード名の値がサーバのリストに表示されていることを確認します。



(注) 新しいノード名の値がサーバのリストにない場合は、先の手順には進まないでください。

**ステップ 5** ホスト名の変更が、クラスタ内のすべてのノードに複製されることを確認します。そのためには、クラスタ内のすべてのノードで CLI から次のコマンドを入力します。

```
run sql select name,nodeid from ProcessNode
```



(注) 更新したノード名の値が、クラスタにあるすべてのノードに複製されていない場合は、先の手順に進まないでください。

**ステップ 6** 各サブスクリバサーバに対して CLI で次のコマンドを入力することにより、クラスタ内の各サブスクリバサーバ上のパブリッシャサーバのホスト名を変更します。

```
set network cluster publisher hostname <new_hostname>
```

次に、例を示します。

```
set network cluster publisher hostname newhost1
```

**ステップ 7** パブリッシャサーバ上で、サーバのホスト名を次のように変更します。

- CLI コマンド `set network hostname newhost1` を入力します。  
ここで、`newhost1` は新しいホスト名を意味します。
- Yes** と入力して Enter キーを押します。新しいホスト名を反映してサーバが自動的に再起動します。



(注) ホスト名を変更すると、自己署名証明書が自動的に再生成されます。サーバが自動的に再起動しても、CTL クライアントを再実行して CTL ファイルを更新しないと、このサーバへのセキュア接続はできません。

**ステップ 8** パブリッシャノードが再起動した後、次の CLI コマンドですべてのサブスクリバノードを再起動します。

```
utils system restart
```

**ステップ 9** すべてのノードが正常に再起動した後、パブリッシャノードで次の CLI コマンドを実行して、レプリケーションをリセットします。

```
utils dbreplication reset all
```



(注) このコマンドの実行には最大 15 分かかります。

**ステップ 10** `utils dbreplication reset all` コマンドが完了した後、次の CLI コマンドでパブリッシャ ノードを再起動します。

```
utils system restart
```

**ステップ 11** パブリッシャ ノードが再起動した後、次の CLI コマンドでクラスタ内のすべてのサブスクリバ ノードを再起動します。

```
utils system restart
```

### 関連トピック

- 『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』
- 『Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide』
- 『Deployment Guide for IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager』

### 次の作業

[「変更後の作業リスト」\(P.6-1\)](#)

## サブスクリバサーバホスト名の変更

クラスタにあるサブスクリバサーバのホスト名を変更するには、次の手順を実行します。DNS サーバは、ネットワーク インフラストラクチャを構成する要素の 1 つです。IM and Presence サーバは、DNS サービスを実行せず、また実行することもできません。

### はじめる前に

[「作業前のチェックリスト」\(P.1-1\)](#) を参照してください。

### 手順

**ステップ 1** 次の操作を実行します。

- サブスクリバサーバの DNS レコードを、新しいホスト名、たとえば `newhost1` を指すように変更します（説明上、この手順では、CLI コマンド例で `newhost1` を使用）。
- 必ず順方向（A）レコードと逆方向（PTR）レコードの両方を正しく更新します。

**ステップ 2** すべてのクラスタ ノードで次の CLI コマンドを実行することにより、DNS の変更が他のノードに伝搬されていることを確認します。

```
utils network host newhost1
```

ここで、`newhost1` は新しいホスト名を意味します。

このコマンドの出力は次のようになります。

```
admin:utils network host newhost1
Hostname newhost1 resolves to 14.86.13.11
```

- ステップ 3** Cisco Unified CM IM and Presence の管理から、パブリッシャ サーバで次の作業を実行します。
- [システム (System)] > [クラスタ トポロジ (Cluster Topology)] を選択します。
  - [クラスタ トポロジ (Cluster Topology)] ツリービューからサブスクリバ ノードを選択します。
  - [ノードの設定 (Node Configuration)] セクションで、次のように新しいホスト名を反映するように [名前 (Name)] を更新します。
    - サーバをホスト名で定義している場合は、古いホスト名を新しいホスト名に置き換えます。たとえば、[名前 (Name)] を「old-host」から「new-host」に更新します。
    - サーバを FQDN で定義している場合は、古いホスト名ではなく、新しいホスト名を参照するように FQDN の値を更新します。たとえば、[名前 (Name)] を「old-host.example.com」から「new-host.example.com」に更新します。
  - [保存 (Save)] を選択します。

- ステップ 4** Cisco Unified Communications Manager の管理から、次の作業を実行します。
- [システム (System)] > [アプリケーション サーバ (Application Server)] を選択します。
  - [サーバの検索と一覧表示 (Find and List Servers)] ウィンドウで [検索 (Find)] を選択し、サーバを表示します。
  - 新しいノード名の値がサーバのリストに表示されていることを確認します。



(注) 新しいノード名の値がサーバのリストにない場合は、先の手順には進まないでください。

- ステップ 5** ホスト名の変更が、クラスタ内のすべてのノードに複製されることを確認します。そのためには、クラスタ内のすべてのノードで CLI から次のコマンドを入力します。

```
run sql select name,nodeid from ProcessNode
```



(注) 更新したノード名の値が、クラスタにあるすべてのノードに複製されていない場合は、先の手順に進まないでください。

- ステップ 6** サブスクリバ サーバ上で、サーバのホスト名を次のように変更します。
- CLI コマンド `set network hostname newhost1` を入力します。  
ここで、`newhost1` は新しいホスト名を意味します。
  - Yes** と入力して Enter キーを押します。新しいホスト名を反映してサーバが自動的に再起動します。



(注) ホスト名を変更すると、自己署名証明書が自動的に再生成されます。サーバが自動的に再起動しても、CTL クライアントを再実行して CTL ファイルを更新しないと、このサーバへのセキュア接続はできません。

- ステップ 7** 次のコマンドで、クラスタ内のパブリッシャ ノードを再起動します。

```
utils system restart
```

- ステップ 8** 次のコマンドで、クラスタ内の他のすべてのサブスクリバ ノードを再起動します。

```
utils system restart
```

- ステップ 9** すべてのノードが正常に再起動した後、パブリッシャ ノードで次の CLI コマンドを実行して、レプリケーションをリセットします。



```
utils dbreplication reset all
```



(注) このコマンドの実行には最大 15 分かかります。

**ステップ 10** `utils dbreplication reset all` コマンドが完了した後、次の CLI コマンドでパブリッシャ ノードを再起動します。

```
utils system restart
```

**ステップ 11** パブリッシャ ノードが再起動した後、次の CLI コマンドでクラスタ内のすべてのサブスクリバ ノードを再起動します。

```
utils system restart
```

#### 関連トピック

- 『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』
- 『Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide』
- 『Deployment Guide for IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager』

#### 次の作業

[「変更後の作業リスト」\(P.6-1\)](#)





# CHAPTER 5

## サーバドメインの変更

- 「手順の概要」(P.5-1)
- 「手順のワークフロー」(P.5-2)
- 「DNS レコードの更新」(P.5-3)
- 「IM and Presence のノード名の更新」(P.5-5)
- 「DNS ドメインの更新」(P.5-6)
- 「ドメイン更新後のクラスタにあるすべてのサーバのリブート」(P.5-8)
- 「データベース レプリケーションの再開」(P.5-9)
- 「セキュリティ証明書の再生成」(P.5-11)

### 手順の概要

この手順で、管理者は IM and Presence サーバまたはサーバのグループに関連付けた DNS ドメインを変更できます。



#### 注意

IM and Presence クラスタにあるどのサーバでドメインを変更しても、サーバが再起動することになるので、プレゼンス サービスと他のシステム機能が中断します。システムにこのような影響があることから、このドメイン変更手順は、スケジュールしたメンテナンス時間の中で実行する必要があります。

この手順ではサーバの DNS ドメインを変更しますが、Cisco Unified CM IM およびプレゼンス管理 GUI のクラスタ トポロジ設定で設定した全社的なプレゼンス ドメインを変更するものではありません。

- 全社的なプレゼンス ドメインは、どの IM and Presence サーバの DNS ドメインにも合わせる必要はありません。
- 実際の導入環境で全社的なプレゼンス ドメインを変更するには、『*Deployment Guide for IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。



#### (注)

- この手順では、サードパーティの署名済み証明書がすべて、新しい自己署名の証明書で自動的に上書きされます。これらの証明書にサードパーティの認証局による再署名を適用するには、新しい証明書を手動で依頼し、アップロードする必要があります。

- これらの新しい証明書を有効にするには、サービスの再起動が必要になることがあります。新しい証明書の要求に要する時間によっては、メンテナンス時間を別途設定して、サービスの再起動スケジュールを設定することが必要になる場合もあります。
- この手順に先立って、これらの新しい証明書を要求することはできません。証明書署名要求 (CSR) を生成できるのは、サーバでドメインを変更し、そのサーバを再起動した後だけです。

## 手順のワークフロー

次の表では、IM and Presence サーバまたはサーバのグループに関連付けた DNS ドメインを変更する手順を説明しています。この手順の詳しい説明では、クラスタにある複数のノードに対する変更を実行するステップの正確な順序を指定しています。

複数のクラスタにわたってこの手順を実行する場合は、順番に一度に 1 つのクラスタで変更を完了する必要があります。



(注) この手順の各タスクは、この表に示された順序どおりに実行する必要があります。

表の凡例：

- X：必須の手順
- NA：適用されない手順

表 5-1 DNS ドメインを変更するためのワークフロー

| 手順 | タスク                                                                                                                                                                                                                                                                                | ノード名の形式 |      |      |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|------|------|
|    |                                                                                                                                                                                                                                                                                    | IP アドレス | ホスト名 | FQDN |
| 1  | クラスタにあるすべての適用対象ノードについて <b>作業前のチェックリスト</b> を作成します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• このチェックリストには、変更を実施する前にシャットダウンを必要とするサービスのリストなど、前提条件の手順がいくつか記載されています。</li> <li>• これらの手順の中には、パブリッシャ ノードのみに適用するものが存在することがあります。したがって、サブスクリバ ノードのチェックリストを扱う場合は、そのような手順を省略してもかまいません。</li> </ul> | X       | X    | X    |
| 2  | クラスタにあるすべての適用対象ノードで、サーバに対して <b>DNS レコードの更新</b> を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• SRV、順方向 (A)、および逆方向 (PTR) の各レコードを必要に応じて更新し、新しいサーバドメインを取り入れます。</li> </ul>                                                                                                            | X       | X    | X    |

表 5-1 DNS ドメインを変更するためのワークフロー（続き）

| 手順 | タスク                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | ノード名の形式 |      |      |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|------|------|
|    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | IP アドレス | ホスト名 | FQDN |
| 3  | <p>クラスタにあるすべての適用対象ノードで、Cisco Unified CM IM およびプレゼンス管理 GUI から <b>IM and Presence</b> のノード名の更新を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ノード名が FQDN であるノードでは、ドメイン変更前のサーバのドメイン名を参照しています。したがって、FQDN の値に新しいサーバドメインが反映されるように、ノード名を更新する必要があります。</li> <li>ノード名が IP アドレスまたはホスト名の場合は、ドメインを参照していないので、何の変更も必要ありません。</li> </ul> | NA      | NA   | X    |
| 4  | <p><b>管理 CLI</b> で、適用対象のすべてのノードに対して <b>DNS ドメインの更新</b> を実行します。</p> <p>この CLI コマンドは、サーバのオペレーティングシステムに対して必要なドメイン変更を実行します。これによって、各サーバで自動リブートが発生します。</p>                                                                                                                                                                       | X       | X    | X    |
| 5  | <p><b>ドメイン更新後のクラスタにあるすべてのサーバのリブート</b>。</p> <p>この手順では、変更したサーバに関連付けられた DNS ドメインの変更が、すべてのノードでオペレーティングシステムのコンフィギュレーションファイルに反映されます。</p>                                                                                                                                                                                         | X       | X    | X    |
| 6  | <p><b>管理 CLI</b> で <b>データベース レプリケーションの再開</b> を実行します。</p> <p>クラスタにあるすべてのシステムファイルが互いに同期した後で、データベースのレプリケーションを再開する必要があります。</p>                                                                                                                                                                                                 | X       | X    | X    |
| 7  | <p>サーバで <b>セキュリティ証明書の再生成</b> を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>すべての IM and Presence のセキュリティ証明書では、件名 CN がサーバの FQDN に設定されています。したがって、新しいサーバドメインを取り入れるために、DNS ドメインの変更後は、すべての証明書が自動的に再生成されます。</li> <li>それまでに認証局で署名されていた証明書には、再署名が必要です。</li> </ul>                                                              | X       | X    | X    |
| 8  | <p>クラスタにあるすべての適用対象ノードについて <b>変更後の作業リスト</b> を作成します。</p> <p>クラスタが再び稼働状態になっていることを確認する一連の手順を実行します。</p>                                                                                                                                                                                                                         | X       | X    | X    |

## DNS レコードの更新

サーバの DNS ドメインが変更されるので、そのサーバに関連付けられた既存の DNS レコードをすべて更新する必要があります。この対象となるレコードは、次のタイプのレコードです。

- A レコード
- PTR レコード

- SRV レコード

クラスタにある複数のサーバを変更する場合は、それらのサーバごとに次の手順を実行する必要があります。

パブリッシャ ノードを変更する場合は、この手順をまずパブリッシャ ノードで実行し、その後で該当するすべてのサブスクリバ ノードで同じ手順を繰り返します。



(注)

- これらの DNS レコードの更新は、サーバでの DNS ノードの変更そのものを実行したメンテナンス時間の中で実行する必要があります。
- スケジュールされているメンテナンス時間の前に DNS レコードを更新すると、IM and Presence サービスの機能に影響が及ぶ可能性があります。

### はじめる前に

作業前のチェックリストでのチェックを完了していることを確認します。詳細については、「[作業前のチェックリスト](#)」(P.1-1) を参照してください。

### 手順

- ステップ 1** サーバの古い DNS 順方向 (A) レコードを、古いドメインから削除します。
- ステップ 2** 新しいドメインに、このサーバの新しい DNS 順方向 (A) レコードを作成します。
- ステップ 3** このサーバの DNS 逆方向 (PTR) レコードを更新し、サーバの更新された完全修飾ドメイン名 (FQDN) を指すようにします。
- ステップ 4** このサーバを指している DNS SRV レコードをすべて更新します。
- ステップ 5** このサーバを指している他の DNS レコードをすべて更新します。
- ステップ 6** 各ノードの管理 CLI で次のコマンドを実行して、クラスタにある他のすべてのノードに上記の DNS の変更がすべて伝播されていることを確認します。

- a. 新しい A レコードを検証するには:

```
utils network host new-fqdn
```

サーバの更新された FQDN を *fqdn* とします。

次に、例を示します。

```
admin: utils network host server1.new-domain.com
Local Resolution:
server1.new-domain.com resolves locally to 10.53.50.219
```

```
External Resolution:
server1.new-domain.com has address 10.53.50.219
```

- b. 更新された PTR レコードを検証するには:

```
utils network host ip-addr
```

サーバの IP アドレスを *ip-addr* とします。

次に、例を示します。

```
admin: utils network host 10.53.50.219
Local Resolution:
10.53.50.219 resolves locally to server1.new-domain.com
```

```
External Resolution:
server1.new-domain.com has address 10.53.50.219
219.50.53.10.in-addr.arpa domain name pointer server1.new-domain.com.
```



(注) 手順のこの時点では、サーバの DNS ドメインを変更しない限り、IP アドレスのローカル解決は古い FQDN を指したままになっています。

c. 任意の更新済み SRV レコードを検証するには:

```
utils network host srv-name srv
```

SRV レコードを *srv-name* とします。

次に、\_xmpp-server SRV レコードをルックアップする例を示します。

```
admin: utils network host _xmpp-server._tcp.galway-imp.com srv
Local Resolution:
Nothing found
```

```
External Resolution:
_xmpp-server._tcp.sample.com has SRV record 0 0 5269 server1.new-domain.com.
```

### 次の作業

[「IM and Presence のノード名の更新」\(P.5-5\)](#)

## IM and Presence のノード名の更新

Cisco Unified CM IM and Presence の管理 GUI から [ クラスタ トポロジ (Cluster Topology) ] でサーバに定義しているノード名が、サーバの完全修飾ドメイン名 (FQDN) に設定されている場合、そのノード名は古いドメイン名を参照しています。したがって、新しいドメイン名を参照するようにノード名を更新する必要があります。



- (注)
- この手順は、このサーバのノード名の値が FQDN に設定されている場合にのみ実行する必要があります。
  - ノード名がサーバの IP アドレスまたはホスト名と一致している場合、この手順は不要です。

クラスタにある複数のサーバを変更する場合は、それらのサーバごとに次の手順を順番に実行する必要があります。

パブリッシャ ノードを変更する場合は、この手順をまずサブスクリバ ノードで実行し、その後でパブリッシャ ノードで同様にこの手順を実行する必要があります。

### はじめる前に

DNS レコードを更新済みであることを確認します。詳細については、「[DNS レコードの更新」\(P.5-3\)](#)を参照してください。

## 手順

- ステップ 1** IM and Presence サーバのノード名を変更します。
- Cisco Unified CM IM and Presence の管理 GUI にサインインします。
  - [システム (System)] > [クラスタ トポロジ (Cluster Topology)] を選択します。
  - [クラスタ トポロジ (Cluster Topology)] ページの左側ペインで、ツリー ビューからサーバを選択します。  
右側のペインでは、[ノード設定 (Node Configuration)] セクションで [名前 (Name)] パラメータがサーバの FQDN に設定されています。
  - この FQDN が新しいドメイン名の値を参照するように、[名前 (Name)] パラメータを更新します。たとえば、[名前 (Name)] の値を server1.old-domain.com から server1.new-domain.com に更新します。
  - [保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 2** Cisco Unified Communications Manager の管理 GUI で、このサーバのアプリケーション サーバのエントリが、新しいノード名を反映して更新されていることを確認します。
- Cisco Unified Communications Manager の管理 GUI にサインインし、[システム (System)] > [アプリケーション サーバ (Application Server)] に移動します。
  - [アプリケーション サーバの検索/一覧表示 (Find and List Application Servers)] ページで、必要に応じて、[検索 (Find)] をクリックします。
  - アプリケーション サーバのリストに、更新したノード名に対してエントリが存在することを確認します。



(注) このサーバのエントリが存在しない場合、またはそのエントリがあっても、サーバの古いノード名を反映している場合は、以降の手順には進まないでください。

## 次の作業

該当するすべてのノードで DNS ドメインを更新します。「DNS ドメインの更新」(P.5-6) を参照してください。

## DNS ドメインの更新

ここでは、管理 CLI を使用してサーバの DNS ドメインを変更する手順について説明します。

この手順ではサーバの DNS ドメインを変更しますが、Cisco Unified CM IM およびプレゼンス管理 GUI のクラスタ トポロジ設定で設定した全社的なプレゼンス ドメインを変更するものではありません。



- (注)
- 全社的なプレゼンス ドメインは、どの IM and Presence サーバの DNS ドメインにも合わせる必要はありません。
  - 実際の導入環境で全社的なプレゼンス ドメインを変更するには、『*Deployment Guide for IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。



クラスタにある複数のサーバを変更する場合は、それらのサーバごとに次の手順を順番に実行する必要があります。

パブリッシャ ノードを変更する場合は、この手順をまずパブリッシャ ノードで実行し、その後で該当するすべてのサブスクリバ ノードで同じ手順を繰り返します。

### はじめる前に

IM and Presence のノード名を更新していることを確認します。「[IM and Presence のノード名の更新 \(P.5-5\)](#)」を参照してください。

### 手順

**ステップ 1** サーバで管理 CLI にサインインし、次のコマンドを実行してドメインを変更します。

```
set network domain new-domain
```

設定する新しいドメインの値を *new-domain* とします。サンプル出力は次のとおりです。

```
admin: set network domain new-domain.com
```

```
*** WARNING ***
```

```
Adding/deleting or changing domain name on this server will break
database replication. Once you have completed domain modification
on all systems that you intend to modify, please reboot all the
servers in the cluster. This will ensure that replication keeps
working correctly. After the servers have rebooted, please
confirm that there are no issues reported on the Cisco Unified
Reporting report for Database Replication.
```

```
The server will now be rebooted. Do you wish to continue.
```

```
Security Warning : This operation will regenerate
all CUP Certificates including any third party
signed Certificates that have been uploaded.
```

```
Continue (y/n)?
```

**ステップ 2** y を選択して Enter キーを押すことでドメインの変更を確認し、サーバをリブートします。



**(注)** ノード名を変更すると、すべての証明書がサーバで再生成されます。これらの証明書の中に、サードパーティの認証局で署名したものがある場合、この手順の後半で、それらの署名済み証明書を再度要求する必要があります。「[セキュリティ証明書の再生成 \(P.5-11\)](#)」を参照してください。

**ステップ 3** 上記の例で示したように、ドメイン名を変更すると、サーバが自動的にリブートします。サーバが再起動した後、次のコマンドを実行して、ドメイン名の変更が反映されていることを確認します。

```
show network eth0
```

たとえば、次のコマンドでは、新しいドメインが「new-domain」であることを確認します。

```
admin: show network eth0
Ethernet 0
DHCP : disabled Status : up
IP Address : 10.53.50.219 IP Mask : 255.255.255.000
Link Detected: yes Mode : Auto disabled, Full, 1000 Mbits/s
Duplicate IP : no
```

```
DNS
```

```

Primary : 10.53.51.234 Secondary : Not Configured
Options : timeout:5 attempts:2
Domain : new-domain.com
Gateway : 10.53.50.1 on Ethernet 0

```

### 次の作業

クラスタにあるすべてのサーバをリブートします。「ドメイン更新後のクラスタにあるすべてのサーバのリブート」(P.5-8)を参照してください。

## ドメイン更新後のクラスタにあるすべてのサーバのリブート

サーバがリブートして稼働状態に戻った後、クラスタにあるすべてのサーバを手動でリブートする必要があります（自動的にリブートしたサーバも同様にリブートします）。このリブートは、すべてのサーバで、オペレーティングシステムのコンフィギュレーションファイルを、新しいドメインの値に一致したものにすることを目的としています。

まず、パブリッシャ ノードのリブート プロセスから開始します。パブリッシャ ノードが再起動したら、任意の順序で残りのサブスクリバ ノードのリブートを実行します。

### はじめる前に

サーバの DNS ドメインを変更済みであることを確認します。「DNS ドメインの更新」(P.5-6)を参照してください。

### 手順

**ステップ 1** 管理 CLI で次のコマンドを使用してパブリッシャをリブートします。

```
utils system restart
```

次の出力が表示されます。

```

admin: utils system restart
Do you really want to restart ?
Enter (yes/no)?

```

**ステップ 2** yes と入力して Enter キーを押し、再起動します。

**ステップ 3** パブリッシャ ノードが再起動したことを示す次のメッセージが表示されるまで待ちます。

```
Broadcast message from root (Wed Oct 24 16:14:55 2012):
```

```

The system is going down for reboot NOW!
Waiting .

```

```
Operation succeeded
```

```
restart now.
```

**ステップ 4** サブスクリバ ノードごとに管理 CLI にサインインし、同じコマンドを実行してそのノードをリブートします。

```
utils system restart
```



(注) サービスの停止の試行で数分が経過すると、管理 CLI から強制的な再起動を要求されることがあります。その場合は **yes** を入力します。

#### 次の作業

データベースのレプリケーションを再開します。「データベース レプリケーションの再開」(P.5-9) を参照してください。

## データベース レプリケーションの再開

クラスタにあるすべてのサーバが再起動した後、データベースのレプリケーションを再開する必要があります。



(注) ライセンス許諾されたユーザが多数存在するクラスタでは、データベースのレプリケーションの再開が完了するまでに 1 時間以上を要することがあります。次の手順に示す検証機能を使用して、すべてのノードでレプリケーションが完了したことを確認したうえで、次の手順に進みます。

#### はじめる前に

クラスタにあるすべてのサーバがリブートしていることを確認します。「ドメイン更新後のクラスタにあるすべてのサーバのリブート」(P.5-8) を参照してください。

#### 手順

**ステップ 1** クラスタにあるすべてのノードで管理 CLI から次のコマンドを入力して、必須のデータベース サービスが稼働していることを確認します。

```
utils service list
```

次の出力が表示されます。

```
admin: utils service list
```

```
Requesting service status, please wait...
System SSH [STARTED]
Cluster Manager [STARTED]
Service Manager is running
Getting list of all services
>> Return code = 0
A Cisco DB[STARTED]
A Cisco DB Replicator[STARTED]
Cisco AMC Service[STARTED]
Cisco AXL Web Service[STARTED]
Cisco Audit Event Service[STARTED]
Cisco Bulk Provisioning Service[STARTED]
Cisco CDP[STARTED]
...
...
Cisco XCP Authentication Service[STARTED]
Cisco XCP Config Manager[STARTED]
```

```

Cisco XCP Connection Manager[STARTED]
Cisco XCP Directory Service[STARTED]
Cisco XCP Router[STARTED]
Cisco XCP SIP Federation Connection Manager[STARTED]
Cisco XCP Text Conference Manager[STARTED]
Cisco XCP Web Connection Manager[STARTED]
Cisco XCP XMPP Federation Connection Manager[STARTED]
Host Resources Agent[STARTED]
MIB2 Agent[STARTED]
Platform SOAP Services[STARTED]
SNMP Master Agent[STARTED]
SOAP -Log Collection APIs[STARTED]
SOAP -Performance Monitoring APIs[STARTED]
SOAP -Real-Time Service APIs[STARTED]
System Application Agent[STARTED]
Cisco XCP Message Archiver[STOPPED] Service Not Activated
Primary Node =true

```

**ステップ 2** この出力で、次のサービスの状態が **STARTED** であることを確認します。

- Cisco DB
- Cisco DB Replicator
- Cisco Database Layer Monitor



**(注)** クラスタにあるすべてのノードで上記のサービスが稼働していることを確認できない場合は、以降の手順には進まないでください。

**ステップ 3** パブリッシャ ノードの管理 CLI で以下のコマンドを入力して、クラスタ全体で複数を再開します。

```
utils dbreplication reset all
```

次の出力が表示されます。

```

admin: utils dbreplication reset all
This command will try to start Replication reset and will return in 1-2 minutes.
Background repair of replication will continue after that for 1 hour.
Please watch RTMT replication state. It should go from 0 to 2. When all subs
have an RTMT Replicate State of 2, replication is complete.
If Sub replication state becomes 4 or 1, there is an error in replication setup.
Monitor the RTMT counters on all subs to determine when replication is complete.
Error details if found will be listed below
OK [10.53.50.219]

```

この CLI コマンドが返るまでに 1 ~ 2 分を要することがあります。一方、レプリケーションの回復処理はバックグラウンドで実行を継続しており、その完了には 1 ~ 2 分よりもはるかに長い時間がかかることがあります。

**ステップ 4** 管理 CLI で次のコマンドを実行して、パブリッシャ ノードでレプリケーションが正常に確立されたことを確認します。

```
utils dbreplication runtimestate
```

次の出力が表示されます。

```

admin: utils dbreplication runtimestate

DDB and Replication Services: ALL RUNNING

DB CLI Status: No other dbreplication CLI is running...

Cluster Replication State: BROADCAST SYNC Completed on 1 servers at: 2012-09-26-15-18

```

```
Last Sync Result: SYNC COMPLETED 257 tables sync'ed out of 257
Sync Errors: NO ERRORS
```

```
DB Version: ccm9_0_1_10000_9000
Number of replicated tables: 257
Repltimeout set to: 300s
```

```
Cluster Detailed View from gwydlvm020105 (2 Servers):
```

| SERVER-NAME | IP ADDRESS     | PING (msec) | RPC? | REPLICATION STATUS | REPL. QUEUE | DBver& TABLES | REPL LOOP? | REPLICATION SETUP (RTMT) & details |
|-------------|----------------|-------------|------|--------------------|-------------|---------------|------------|------------------------------------|
| server1     | 192.168.10.201 | 0.038       | Yes  | Connected          | 0           | match         | Yes        | (2)PUB Setup Completed             |
| server2     | 192.168.10.202 | 0.248       | Yes  | Connected          | 0           | match         | Yes        | (2)Setup Completed                 |
| server3     | 192.168.10.203 | 0.248       | Yes  | Connected          | 0           | match         | Yes        | (2)Setup Completed                 |
| server3     | 192.168.10.204 | 0.248       | Yes  | Connected          | 0           | match         | Yes        | (2)Setup Completed                 |

**ステップ 5** すべてのノードで REPLICATION STATUS が **Connected** であることおよび REPLICATION SETUP 値が **(2) Setup Complete** であることが示されるまで、ステップ 3 を繰り返します。この時点で、パブリシヤノードでは、データベースのレプリケーションが完全に確立されたと見なします。



**(注)** REPLICATION SETUP 値に (4) が示されているサーバがある場合は、レプリケーションに問題があることが考えられます。この手順のステップ 1 に戻り、レプリケーションを再度再開します。

**ステップ 6** サブスクリバノードごとに管理 CLI から次のコマンドを実行して、すべてのサブスクリバノードでレプリケーションが正常に確立していることを確認します。

```
utils dbreplication runtimestate
```

**ステップ 7** すべてのノードで REPLICATION STATUS が **Connected** であることおよび REPLICATION SETUP 値が **(2)** であることが示されるまで、ステップ 6 を繰り返します。この時点で、サブスクリバノードでは、データベースのレプリケーションが完全に確立されたと見なします。



**(注)** REPLICATION SETUP 値に (4) が示されているサーバがある場合は、レプリケーションに問題があることが考えられます。この手順のステップ 1 に戻り、レプリケーションを再度再開します。

すべてのノードでレプリケーションが正常に確立されれば、データベースのレプリケーションを再開するこの手順は完了です。

#### 次の作業

「セキュリティ証明書の再生成」(P.5-11)。

## セキュリティ証明書の再生成

サーバの完全修飾ドメイン名 (FQDN) は、IM and Presence のすべてのセキュリティ証明書で件名 CN として使用されます。したがって、サーバで DNS ドメインを更新すると、すべてのセキュリティ証明書が自動的に再生成されます。

いずれかの証明書にサードパーティの認証局が署名していた場合は、認証局が署名した証明書を新たに手動で生成する必要があります。

クラスタにある複数のサーバを変更する場合は、それらのサーバごとに次の手順を実行する必要があります。

### はじめる前に

データベースのレプリケーションが正常に確立されていることを確認します。「[データベース レプリケーションの再開](#)」(P.5-9) を参照してください。

### 手順

**ステップ 1** 証明書にサードパーティの認証局による署名が必要な場合は、Cisco Unified IM and Presence Operating System Administration GUI にサインインし、関連する証明書ごとに必要な手順を実行します。

**ステップ 2** 署名済み証明書をアップロードした後、IM and Presence サーバでサービスの再起動が必要になることがあります。再起動が必要になるサービスは次のとおりです。

- **Tomcat 証明書** : 管理 CLI から次のコマンドを実行して、tomcat サービスを再起動します。  
`utils service restart tomcat`
- **CUP-xmpp 証明書** : Cisco Unified IM and Presence Serviceability GUI から Cisco XCP Router サービスを再起動します。
- **CUP-xmpp-s2s 証明書** : Cisco Unified IM and Presence Serviceability GUI から Cisco XCP Router サービスを再起動します。



(注)

- これらの再起動によって、サービスが影響を受けます。したがって、署名済み証明書を入手するまでに要する時間に応じて、これらのサービスを再起動するメンテナンス時間のスケジュール設定が別途必要になることがあります。サービスを再起動するまでの間は、暫定的に自己署名の証明書が関連のインターフェイスに引き続き提示されます。
- 上記のリストで指定されていない証明書では、サービスの再起動は不要です。

### 次の作業

クラスタにあるすべての該当するノードで、変更後の作業リストにある作業を完了します。「[変更後の作業リスト](#)」(P.6-1) を参照してください。



# CHAPTER 6

## 変更後の作業リスト

クラスタの IP アドレス、ホスト名、またはドメインを変更した後で、次の手順を完了します。

### 手順

- ステップ 1** アクティブな **ServerDown** 警告が発生していないか調べ、クラスタにあるすべてのサーバが正常に稼働していて、利用可能であることを確認します。パブリッシャ ノードのコマンドライン インターフェイス (CLI) に次のコマンドを入力することにより、アプリケーション イベント ログで **ServerDown** 警告を確認できます。

```
file search activelog syslog/CiscoSyslog ServerDown
```

- ステップ 2** クラスタにあるすべての **IM and Presence** ノードでデータベース レプリケーションのステータスを調べ、すべてのサーバがデータベースの変更内容を正常に複製していることを確認します。次の CLI コマンドを使用して確認できます。

```
utils dbreplication runtimestate
```



**(注)** すべてのノードで、**REPLICATION SETUP (RTMT) & details** の値が 2 である必要があります。

- ステップ 3** 作業前のチェックリストにある **ステップ 9** を完了した場合は、パブリッシャ / サブスクリバのホスト名 / IP アドレスが各ピア クラスタ パブリッシャ ノードに変更されたクラスタを追加します。
- ステップ 4** 手順を実行する前に **SSO** を無効にした場合、この時点で有効にできます。SSO を有効にする方法については、『*Deployment Guide for IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager*』の「**Single Sign-On Configuration**」の項を参照してください。
- ステップ 5** 手動で **DRS** バックアップを実行し、すべてのノードとアクティブなすべてのサービスが正しくバックアップされていることを確認します。
- ステップ 6** サーバの IP アドレスを変更した場合は、次のように **RTMT** カスタム警告と保済みプロファイルを更新します。
- パフォーマンス カウンタから得られた **RTMT** カスタム警告には、サーバの IP アドレスがハードコードで記録されています。これらのカスタム警告を削除し、再設定する必要があります。
  - パフォーマンス カウンタを備えた **RTMT** 保済みプロファイルには、サーバの IP アドレスがハードコードで記録されています。これらのカウンタをいったん削除してから追加し直した後、プロファイルを保存して新しい IP アドレスで更新する必要があります。
- ステップ 7** 関連する他の **Cisco Unified Communications** コンポーネントで設定上の変更が必要ないか確認し、適宜変更します。このコンポーネントには次のものがあります。



(注) 必要に応じて設定を変更する方法については、ご使用の製品のマニュアルを参照してください。

- SIP トランク
- IM and Presence サーバでトレース収集や DRS バックアップの保存先として使用される SFTP サーバ
- Cisco Jabber
- 関連するルータおよびゲートウェイ
- IBM Lotus Sametime などのサードパーティ クライアント

**ステップ 8** すべてのノードで、サービスが稼働していることを確認します。サービスを起動する必要がある場合は、次のコマンドを使用して、次の順序で IM and Presence サービスを起動します。

- `utils service start Cisco XCP Config Manager`
- `utils service start Cisco Route Datastore`
- `utils service start Cisco Login Datastore`
- `utils service start Cisco SIP Registration Datastore`
- `utils service start Cisco Presence Datastore`
- `utils service start Cisco XCP Router`
- `utils service start Cisco Sync Agent`
- `utils service start Cisco SIP Proxy`
- `utils service start Cisco OAM Agent`
- `utils service start Cisco Presence Engine`
- `utils service start Cisco Client Profile Agent`
- `utils service start Cisco Intercluster Sync Agent`
- `utils service start Cisco Config Agent`

**ステップ 9** ホスト名または IP アドレスを変更する前にハイアベイラビリティ (HA) が無効にされていた場合は、すべてのサブクラスターの HA を有効にします。Cisco Unified CM IM and Presence の管理で、[システム (System)] > [クラスタートポロジ (Cluster Topology)] を選択します。HA を有効にする方法の詳細については、『*Deployment Guide for IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

**ステップ 10** ノードの IP アドレスまたはホスト名を変更した後は、手動で DRS バックアップを実行する必要があります。これは、DRS ファイルでノードを復元するには、DRS ファイルとノードで IP アドレスとホスト名が一致している必要があるからです。変更後の DRS ファイルには、新しい IP アドレスや新しいホスト名が記録されています。

#### 関連トピック

- 『*Disaster Recovery System Guide*』
- 『*Interdomain Federation for IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager*』





# CHAPTER 7

## IP アドレス変更後の IM and Presence および MOC 相互運用性の検証

以前は Microsoft LCS/OCS に統合されていた IM and Presence サーバ上のホスト名または IP アドレスを変更した場合のみ、この手順の作業を実行します。Microsoft Office Communicator (MOC) サーバおよびクライアントが正しい IM and Presence IP アドレスとホスト名 (変更後)、および FQDN を反映していることを確認する場合に、この手順を実行する必要があります。

### はじめる前に

変更後の作業リストを完了します。

### 手順

- ステップ 1** 実行している場合は、既存の MOC クライアント セッションからサインアウトします。
- ステップ 2** OCS サーバまたは LCS サーバにサインインします。
- ステップ 3** OCS サーバまたは LCS サーバ上の次のタブで、[フロント エンドのプロパティ (Front End Properties)] を編集します。

| タブ                               | アクション                                                                                                                                                                                                                                                     |
|----------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ルーティング (Routing)] タブ            | <p><b>a.</b> 名前変更された IM and Presence サーバを新しい FQDN および IP アドレスに更新します。</p> <p><b>b.</b> ワイルドカード化された IM and Presence ドメインの [次ホップ (Next Hop)] の IP アドレスを新しい IM and Presence IP アドレスに変更します。</p>                                                                |
| [ホストの承認 (Host Authorization)] タブ | <p>新しい IM and Presence IP アドレスおよび新しい FQDN が次のように一覧表示されていることを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>[送信のみ (Outbound only)] : [N]</li><li>[サーバとして帯域を制限する (Throttle as server)] : [Y]</li><li>[認証済みとして扱う (Treat as Authenticated)] : [Y]</li></ul> |

- ステップ 4** [LCS/OCS ユーザ (LCS/OCS Users)] を右クリックし、次のように編集します。
- a.** [サーバ URI (Server URI)] を新しい IM and Presence FQDN に変更します。
- b.** [OK] を選択します。
- ステップ 5** OCS/LCS フロント エンド サービスを停止します。
- ステップ 6** OCS/LCS フロント エンド サービスを再起動します。

**ステップ 7** MOC クライアントにサインインし、シスコ デバイスの制御を確認します。

---

**関連トピック**

- 『Integration Note for Configuring IM and Presence with Microsoft OCS for MOC Call Control』
- 「変更後の作業リスト」(P.6-1)



## CHAPTER 8

# マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

---

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、その他の有用な情報については、次の URL で毎月更新される『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

## シスコ製品のセキュリティ

本製品には暗号化機能が備わっており、輸入、輸出、配布および使用に適用される米国および他の国の法律を順守するものとします。シスコの暗号化製品を譲渡された第三者は、その暗号化技術の輸入、輸出、配布、および使用を許可されたわけではありません。輸入業者、輸出業者、販売業者、およびユーザは、米国および他の国の法律を順守する責任があります。本製品を使用するにあたっては、関係法令の順守に同意する必要があります。米国および他の国の法律を順守できない場合は、本製品を至急送り返してください。

米国の輸出規制の詳細については、次の URL で参照できます。

[http://www.access.gpo.gov/bis/ear/ear\\_data.html](http://www.access.gpo.gov/bis/ear/ear_data.html)



©2008 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco、Cisco Systems、およびCisco Systems ロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用はCiscoと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(0809R)

この資料の記載内容は2008年10月現在のものです。

この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。



シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先: シスコ コンタクトセンター

0120-092-255(フリーコール、携帯・PHS含む)

電話受付時間: 平日 10:00~12:00、13:00~17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>